

中外新聞

外篇

二十一



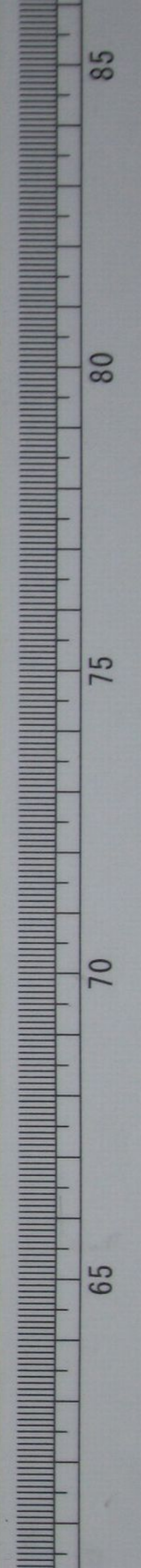
定價
每五分

西垣文庫

文庫 10

7328

21



特 文庫10
7328
21



中外新聞外篇卷之廿一

慶應四年五月

○横濱新聞翻訳

以大利国世子婚礼の事

以大利王ヒクトルイマニウルの世子オルベルトを初め
地利帝フランスヨルセフの姪女マテルタと婚姻の約束
りし此女公子不幸より去年急病に依て物故せり之
因て此度世子の従妹マルガレタを迎へて婚儀相整ひし
マルガレタの父を今王の弟より熱努亞の公爵ありしが
十三年前に没せり母を撒遜王ジンの娘より熱努亞公に



嫁一公の没後辟門の一貴族デラバロ^{再醮}此夫人を讀
書縫針諸藝に通一以大利国内有名の才女あり其女公子^外
ガレ^血紡^を承^りて^聡明^穎悟^の例^{あり}又^以大^利の^世子^也
も^勇壯^{よく}学^を好^み既^に出^羣の^譽と^をキ^スト^ザの^戦場^に
頭^をや^り実^に天^生一^對の^好夫^妻を^りと^く歎^羨せ^{ざる}者^無
り^りと^云

○ 兵庫より音信^と神秀次郎と云者新と運上^所頭取を命ぜ
られ^る由^を中^越より^彼地^商賣^猶淋^{しく}輸^入の^更と^あく
しく^輸出^と此^ら茶^と絹^の取^引の^のみ

○ 上野宮様へ勝安房守より差出の建白書

臣昧死

法親王の膝下^に奉^歎願^い近日^に山内へ^多人^数屯^集任^彼是^浮説^も相^生の^付

督府より毎^に山沙汰^も有^之鎮^静可^仕由^旨の^座に

法親王過^月中^には^為勞^玉趾^寡君^の依^り行^駿河^表へ

由^出輿^に歎^願の^由事^を成^下寡^君水^戸表^へ及^越後^山内^に
為^守衛^彰義^隊の^者少^人数^を差^出置^に処^追及^當節^多人^數
相^集其^内に^寡君^蒙内^命に^杯と^徇の^者有^之哉^と相^同或^ハ
法^塔中^の僧^侶奉^戴

法躰ほくその義奉ぎきょう可有あり之我等われら妄說まがことば相唱あひなげ以もつより益多人數やくたにんすうも相成あひなげ以もつ趣全浮説しゆぜんうせつより相發あひなげ心得違こころあはれの向も不少すくなく以もつは奉存ほうぞん以もつ共既いづれ又また官兵右等くわんべいゆうとうの攻撃こうげき可べ以もつ遊あそぶに仰出おほしも此座こゝ以もつ督府とくふ出入城後しゆりやうじやうごも咫尺しやくちの此間寡君家こゝのさびしきみけの俊とよ又また付つ此登こゝ城じやう此歎こゝ願ねがも此成下こゝ以もつ於お督府とくふも決きて此疎意そいを此為こゝ在ある友私共ともわたくしども又また於おて如何計難有いかにかたがた可奉存ほうぞん以もつ此右私浮説こゝのわたくしうせつより心得違こころあはれの者此攻撃こゝのこうげきも相成あひなげ以もつ此誠まこと以もつ恐入おそ以もつ次才つぎのさいと奉存ほうぞん以もつ下憚私共したげんわたくしども心得違こころあはれ亦有また之此譴責けんざく相蒙あひまか以もつ節ふしの法塔ほふたつ中此歎願こゝのたんげんも可べ以もつ成下なげの此山内こゝのやまうちへ多人数相集おほいなるひとあひなり以もつより都下衆人の難儀たふしと相成あひなげ以もつ此こゝ何なにと

も以もつて中上ちゆうじやう以もつ振ふるも無な之次第しやうだいと奉存ほうぞん以もつ既いづれ又また寡君奉違さびしきみほうわい朝命あそみ今日けふ又また立到たつたう以もつも臣子補弼しんしよほふの道相失みちあひな以もつ所ところより發は以もつ俊とよ又また此座こゝ以もつ処家こゝの重臣じゆうしん悉しつく遁走とんそう仕つか以もつを毫末ごうまつ不願ふげん一身いつしんを以もつて衆苦しゆく又また相替あひかり且かつ国家乱階こくがらんかゐを生な以もつて此数年こゝのすねんの苦心くしん水泡すいぱうと相変あひかり以もつを遠とほく慮しるり一いつ點私念てんしん又また不涉慎ふせつしんて此沙汰奉待さたほうたい以もつ私共わたくしどもも元来微賤げんらいゐせんの身分しんぶん又また此座こゝ以もつへ共寡君断决きさびしきみだんけつ至誠しじやう恭順きんじゆんの深意しんい又また体認たいにん仕引残同藩共心得違寡君しひんしやうごんどうばんきこころあはれの深意しんい又また相反あひた不な以もつ振彼ふるか是尽力仕しんぢりき以もつへ共数万中種きんじやうちゆうしゆく不都合相生ふごごあひな以もつと深く奉恐入ほうおそ以もつ既いづれ又また相續あひつづも此仰出おほし以もつる不日ふじつ又また城邑領国じやういりやうこくも可べ以もつ仰出おほし以もつ裁さと奉存ほうぞん以もつ警罪人けいざいじん又また以もつ共獄中飲食ごくちゆうおんじを以もつて不相与ふあひなと中筋ちゆうしんも無な以もつ

度は依況や数万の家来相抱居は家柄領国も長く不_レ出_レ出_レと_レ中_レ依_レハ毛頭不_レ遊_レは事と奉存_レ且_レ處置_レ付_レてハ負罪小臣輩彼是_レ疑念_レ上_レ筋_レ又_レ無_レ之_レ寡君至誠の念慮_レ明察相成_レ公明上下_レ貫_レき正大海外古今_レ相徹_レ所を以て可_レ仰出_レ必然と奉存_レ是等の所厚く_レ諒察_レ遊_レも_レ當節の世評一も根底無_レ之_レ事と奉存_レ万_一

法親王

督府の_レ間柄_レ右_レ孫無根の_レ儀_レより不測の_レ事相發_レも_レ誠_レ以て奉恐入_レ且今衆後世の評論も_レ免_レ之_レ難_レ遊

は_レ事_レも立到可_レ中_レ我_レ下_レ恐_レ右情実_レ直話_レ遊_レも_レ忽ち_レ氷解_レも_レ相成可_レ中_レ欵私式鬼角可_レ中_レ上_レ松_レも_レ無_レ之_レ以_レ共_レ事实能_レ明_レ諒_レ遊_レ氷解相成多人_レ数_レ無_レ辜_レの死_レを_レ遁_レ之_レ以_レ成_レ下_レも_レ難_レ有_レ可_レ奉存_レ下_レ恐_レ再_レ應_レも_レ熟_レ慮_レ奉_レ願_レ以_レ死罪_レ謹言

辰五月

勝安房守

大総督宮様より上野宮様へ_レ仰進_レは_レ書_レの写

今度徳川慶喜恭順の实效相立_レ家名相續_レの_レ儀_レ仰出_レは_レ付_レ旗下の_レ輩_レ愈_レ以て_レ謹慎_レ可_レ在_レの_レ處_レ心得違_レの_レ徒_レ恣_レ脱_レ走_レ所_レ

又屯集し主人の意に相戻りしのみありし屢官兵を暗殺し
 民財を掠奪し王化を妨げし所業実不相濟次第に付速に討
 伐し及ぶことを勿論の儀より共今日迄遷延し相成はる畢
 竟官の方には此誌親の儀故に
 朝廷厚き思召も在 総督官に於ても深く配慮を
 遊使を以て此登城の儀に仰入其後参謀をも差遣はる
 此面會も無之猶又再應覚王龍王兩院をも召はる共更
 に出頭不致此上の儀救成進の道も絶果一方ありし儀
 慮を遊に下去何分国家の乱賊其俟差置せられはる万民
 塗炭の苦に陥り

朝憲も更不相立次才に付誠不相為得止討伐に仰出に
 召官の方急速に立退に相成に可申上旨 大総督官の沙
 汰に以る此段に上の宜執達可有之儀事

五月十五日

○中外三十九号補遺

閏四月二十五日朝臣轉職の事

議定	三條大納言	議定	正親町前大納言
同	岩倉権大納言	同	徳大寺大納言
同	中山大納言	同	中山門大納言

權知事	坂田葵	副知事	長岡右京亮
史官	新田三郎	判事	吉井幸輔
同	菱田文蔵	同	大村益次郎
史官試輔	江島正人	外国知事	宇和島少将
同	岩谷迂也	副知事	東久世中将
軍務知事	仁和寺刑部卿		

岩倉越前并阿波公と辞表出相成り

○ 五月兩
 禰那の申のけしひり有る事...のまわす...を誰り直さむ
 らみ人くらん

○ 西洋氣轉話

ロウマの大將ジュリウス・セサルを武勇智畧世に超え尤氣轉
 のきし一人あり西洋紀元前四十七年師をアフリカ洲へ進
 めし時真先は立て兵を嚮導せし彼も過ちて足をなぐら
 撲乎地は倒れたり多くの兵士等之を見て敗軍の兆甚不
 吉ありと恐危中ざらざるあり然るに流石のセサルあれば
 固まなぐらも両手を廣げ大地を抱へて大声をアフリカ洲
 を既は我が掌中と在るものありと叫び依之諸軍勢再び
 と立直り大に其地を畧せしとぞ凡兵は將たらんとの
 又此等の活才あるべし

陸士官必推乃卷之一より七まで出本

馬皮紙摺出来

渡部一郎 訳蔵板

